

※文字の大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※各項目の枠の幅は変更可能ですが、必ず A3 用紙片面におさまるように作成してください。
 ※画像、写真、イラスト等は、用紙の中におさまるようにし、ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

【様式 2】

<p>研修成果の活用レポート/NITS 大賞エントリーシート</p> <p>※研修成果の活用レポートは、NITS 大賞エントリーシートと同様式です。NITS 大賞に応募される方は、推薦者への提出とは別に、<award@ml.nits.go.jp>宛て、メールにてお送りください。なお、メール送信後、3 日以上受領メールが届かない場合はご連絡ください。</p>	<p>※事務局記入欄</p> <p>受理No. : D-64</p>
<p>【学校名・氏名】 大阪府立和泉総合高等学校 ・ 岡野 浩</p>	<p>【応募部門】 校内研修プログラム 開発・実践部門</p>
<p>【修了研修名】 平成30年 第2回 副校長・教頭等研修</p>	
<p>【活動名】 スクールコンプライアンス （事例を用いた課題の検討）</p>	
<p>解決すべき課題：※活動を行う前に、どんな課題設定をしましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教員のこれまでの経験を基に種々の教育活動の内容（実施を含む）の可否を判断している。 <p style="text-align: center;">↓</p> <p>どれだけ危険なことなのかを提示することで、生徒を守るとともに教員自身も守ることができる。</p>	
<p>目標・方針：※課題を解決するためにどんな目標や計画、戦略や方針をたてましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 近年における学校事故の判例を精査し、分かり易く提示することを心掛けた。その中で時代の潮流をしっかりと教員に伝え、要点となる「キーワード」の重要性を十二分に理解してもらうことを念頭に計画した。 	
<p>活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中央研修での資料を基に、近年における学校事故での裁判判例を検証しました。 2) 資料の精査を行い、提示資料を作成した。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="222 1591 658 1837"> <p>○はじめに (経験主義の限界)</p> <p>参考事例：愛知県豊田市立小学校校中庭死に事故 平成30年7月17日 小1の児童が校外学習先から戻った後、悪寒を来し倒れ死した。 原因は、熱射病(重症の熱中症) →豊田市内の気温：午前9時に30度、正午には34.8度を記録。 ・校長談・・・これまで校外学習では大きな問題は起きていない。気温は高かったが中止するという判断はできなかった。</p> </div> <div data-bbox="786 1591 1222 1837"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 経験に基づく判断 <ul style="list-style-type: none"> ・ 法的責任を追及されるリスクを伴う。 近年の司法傾向・・・ガイドライン重視 ・ 不遵守・・・敗訴の可能性大 ・ 遵守・・・勝訴の可能性 (敗訴することもある) </div> </div>	

活動内容：※何を行ったか、具体的に記載してください。

○三つの責任

- ・ 刑事責任
- ・ 行政責任（公立学校）
- ・ 民事責任

3) 教職員を対象とした研修（講義、グループワークなど）を行った。

活動の成果：※それによって、どんな成果が得られましたか？

- 1) 学校行事実施の判断に対する基準（ガイドライン）の提示につながった。
- 2) 職務上の事故（業務上過失傷害など）に対し、教職員に及ぶ「三つの責任（刑事・行政・民事）」を理解してもらうことができ、学校事故に対する教職員の意識の変化が見られた。
- 3) 今後の教育活動について、法令を見据えた事故をゼロに近づけるための「予防的コンプライアンス」の実施や、事故が起こった時の「ダメージコントロール」について、教職員の間で意見交換ができた。

アピールポイント（アイデアや工夫）：

- 1) 提示資料としては、近年の分かり易い判例を用いた。そのことによって先生方に「何が裁判上争点になっているのか」を明確に意識付けさせることができ、研修のポイントが揺らぐことなく進めることができた。
- 2) また、グループワークを取り入れることによって、グループ内で多様な考えや意見を判例を提示する前に検討することで、より判例の判断趣旨を考え理解することに繋げることができた。